

新進芸術家芸術展

公益財団法人平和堂財団は、株式会社平和堂の創業者・故夏原平次郎が、平和堂を今日の企業に育てていただいた地域の方々に感謝し、そのご恩に報いるため私財を寄付し、1989年3月に設立しました。滋賀県の教育、文化、体育、環境、児童福祉にかかわる各種助成や事業をおこない、地域社会の発展に寄与することを目的に活動しています。その一環として、毎年、新進芸術家に対する「芸術奨励賞」を贈呈し、「新進芸術家美術展」として発表の場を提供しています。32回目となる今回は、日本画・洋画・版画・彫刻・彫塑・漆工芸・陶芸・染色・書、そして現代美術など、さまざまな分野のアーティスト総勢52名が出展します。

作品の奥に芽吹く、新たな感性がここに集う



表情と冬の庭
洋画 安枝知美



てのひらの彫刻 あふれる
彫刻 布藤喜帆



まねかれざる客人
現代美術・洋画 上田なごみ



8da0b6(Glimpses,Circular Reasoning)
現代美術・洋画 山崎愛彦

大津市在住。京都精華大学美術学部洋画コース卒業。京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程美術専攻(油画)修了。2024年『現代美術-茨木第50回記念特別企画展』(Sociol/大阪)、『Made in Shiga』(OMOTESANDO CROSSING PARK/東京)、個展『浮かび上がる体温』(GAMOYON Gallery/大阪)。25年個展『いる場所と光の量』(2kw gallery/滋賀)、『ニューSMoA コレクション』(滋賀県立美術館)。14年第1回 CAFART AWARD 岩淵貞哉賞。15年京都市立芸術大学 2014年度作品展奨励賞。パブリックコレクションは京都銀行(14年)、滋賀県立美術館(24年)。

草津市出身。京都精華大学大学院博士前期課程立体造形領域修了。アトリエ・チャオ絵画教室講師。2022～24年『やまもりハブン希望が丘』(滋賀県希望が丘文化公園青年の城)。24年『Sculpture Symposium Norge』(Skulpturpark Stålaker/ノルウェー)、『Sculpture by the sea Bondi 2024』(Bondi Beach/シドニー)。25年『あどがわハブン2025 超図画工作』(藤樹の里文化芸術会館/滋賀)、『第2回あさごビエンナーレ2025』(あさご芸術の森美術館/兵庫)、『第11回日本彫刻コンクール』(日本芸術会館/兵庫)。22年第29回 UBE ビエンナーレ 山口県立美術館賞。

大津市出身。京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業。京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程美術専攻(油画)修了。2023年『IZUMI studio オープンアトリエ』(イズミスタジオ/京都)。24年 Kyoto Art for Tomorrow2025-京都府新鋭選抜展-(京都文化博物館)関西日仏学館賞。25年個展『ambivalent』(KUNST ARZT/京都)、『京都市立芸術大学 作品展 2024』、『グループ展『境界観測』、三人展『光影』(京都市立芸術大学京都)、『one room '26』(嵯峨美術大学短期大学/京都)。26年京都市立芸術大学 2025年度作品展奨励賞。

札幌市生まれ京都市在住。京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程(版画)在籍。成安造形大学非常勤講師。2015年北海道美術協会第90回記念道展協会賞。16年札幌大谷大学大谷賞。21年第34回ホルベイン・スカラシップ奨学生。24年一般社団法人日本美術家連盟「美術家のための支援事業」採択。25年公益財団法人日本文化芸術財団2025年度日本文化芸術奨学金奨学生。2026年度村山龍平記念香雪美術館奨学金奨学生。公益財団法人関西・大阪21世紀協会内アーツサポート関西未来アート寄金現代美術部門採択。

出品者 | 2010年度～2025年度までの平和堂財団芸術奨励賞受賞者より

日本画	くらしたえりか	石田 翔太	洋画	岡本 里栄	山本麻衣子
岩井 晴香	梶浦 隼矢	上坂 秀明	北村 美佳	山岡明日香	鮫島 ゆい
藤野裕美子	西本 実紀	野一色優美	藤永 覚耶	福村 真美	安枝 知美
大西 健太	小谷 光		篠原 涼子	大西 孝幸	版画
北川安希子	竹村 花菜		藤井 俊治	中山 悠平	松井亜希子

彫刻・彫塑

高石 麻代
佐野 耕平
布藤 喜帆

漆工芸

榎本さや香
橋詰 里織

書

川添 翠湖
野瀬 晴風
筒井 妍月

岩坂 光葉

昌山 知子
池原 悠太
松延 総司

明楽 和記

岩坂 佑史
藤田 紗衣
上田なごみ

陶芸

津守 愛香
高井 敦史
岡田 清香
田中 希京

染色工芸

金井 大輔
増田 晴香

現代美術

井上裕加里
葛本 康彰

この秋の滋賀県立美術館企画展 同時開催

企画展 丸木スマ展 73歳からのアーティスト

「スマおばあちゃんは、美術界の超新人(スーパールーキー)になった。」広島県に生まれ70歳の時に、爆心地から2.5キロメートルで被爆。原爆を経験したスマさんは、家族のすすめで、73歳で絵筆をとり、身近な自然や生き物を描き続け、女流画家協会展や再興日本美術院展で入選を果たします。そのデビューは当時の美術界に大きな衝撃を与えました。81歳で没するまでの、生命力に溢れた絵の数々をご覧ください。

会場 滋賀県立美術館 展示室3

会期 2026年9月11日(金)～11月23日(月・祝)
9:30～17:00(入場は16:30まで)
※休館日:月曜日(ただし9月21日～23日、10月12日、
11月23日は開館、9月24日、10月13日は休館)

主催 滋賀県立美術館、京都新聞

詳細や関連イベントについては、滋賀県立美術館ウェブサイトをご覧ください。



Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

〒520-2122
滋賀県大津市瀬田南大萱町 1740-1
TEL.077-543-2111
HP.<https://www.shigamuseum.jp/>



「めし」丸木スマ